

# 企業組合 県木住



子供の頃から、いつも田園が広がる果てにふわりと見えていた岩木山。生まれ育った築40年の実家を建て替えた高橋桃子様邸のリビングからも、掃出し窓の真正面に岩木山が眺められる。幅1間半(約2・73m)の大きな窓枠がまるで額縁のよう。窓のすぐ外には「愛犬」ちゃみこ「の運動場」にもなるウッドデッキ。居ながらにして四季折々の岩木山を鑑賞できる自然豊かなロケーションには「木の家」がよく似合う。県木住の施主参加メニューの一つ「チェンソー体験」に挑戦し高橋様自ら山で伐り倒したスギの大黒柱が立つリビングで、「新築物語」を伺った。

## バリアフリーのスギ床

## 祖母を思いやる木の家

### ユ一ザ一訪問

### 高橋 桃子 様邸

#### DATA

五所川原市金山 2018年3月竣工

- 延べ床面積/32.06坪(105.99㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、大黒柱、床、ウッドデッキ)、アカマツ(梁)。

——土地の広さは300坪もあるとか。ここに実家が建っていたのですね。

**高橋様の話** 築40年以上の古い家でしたけどね、過ごした思い出が詰まっているので壊してしまうのはもったいない気持ちもあって、最初はリフォームを考えたんです。それで、リフォーム専門の会社に声をかけてみたら、どうもこちらの要望にはあまり耳を貸さず、会社のやりやすいやり方で話を進めてしまおうという姿勢があからさまで、これ以上話を進めても…….と聞いていたときに、お祖母ちゃんが病に倒れたんです。さ



薪ストーブが設置された玄関土間。夏場は左側の引き戸を開けると玄関からリビングへ風が入る

退院できましたけど、歩行が困難になったので、今までの段差がある実家ではもう暮らせません。自ずと、建て替えの結論が出たんです。というより、お祖母ちゃんがそう導いてくれた

んですね、きつと。

——それで、高橋様邸で開かれた完成見学会（2018年3月）のタイトルが『祖母を思いやる家』だったのでですね。

**高橋様の話** 祖母の部屋は、目が行き届くようにリビングの隣にして、仕切りには戸を付けずにロールカーテンを下げ、部屋からすぐ行けるように続きに手すり付きの洗面とトイレを設けました。車椅子生活だからもちろん床はバリアフ



目が行き届くようにリビングの隣に設けられたお祖母ちゃんの部屋



お祖母ちゃん専用の手すり付きのトイレと洗面台



土間と一体の開放的な空間になっているリビング



スギの木肌に囲まれた2階の洋室



2階の洗面台は木製の手づくり

リーにして。おばあちゃんの部屋からも岩木山が見えますよ。——そういう車椅子対応の住宅をどこかで見学されたのでしょうか。

**高橋様の話** 振り返ってお話しすれば、最初は住宅雑誌でした。地元での雑誌で、しばらくと写真を見ていたら、目を惹かれたのが、床とか腰壁に張られた「木」だったんです。百沢に「いわき壮」っていう山荘風の建物がありますでしょ、以前からああいう建物がいいなと思っていましたから、それで写真の「木」に惹かれたんですよ。

雑誌に載っているその家を建てた工務店を訪ねていってみたいです。そうしたら、社員の対応がいまいちでした。こっちが知りたいことを質問しても的確な答えは返ってこないし、やる気があるのかなのか、おまけにまだ建てるかどうかも決めてもないのに間取りの要望を聞かれるに及んで、もうそこで内心は「×」でしたね。

そんなときに、母がネットで検索したら、「県木住」がヒットしたんです。

**お母様の話** 「青森県」「木の家」と打ち込んだら、いちばん最初に県木住があつたんですよ。結果的には、そのことが大きかったんじゃないでしょうか。さつそくメールで資料請求しました。送られてきた資料の中に完成見学会の案内が入っていたので、娘と見に行ってみました。その家をひと目で気に入ったんです。わたしも、娘も。何かがどうと聞かれてもうまく答えられませんが、玄関土間があつて、そこに薪ストーブがあつて、土間とリビングとが一体の開放的な空間になっていて、居間から2階に階段がのびている……そんな間取りでした。わたしも娘も、建てるならそんな間取りにしたいと漠然とながらも思い描いていたのでしよう。それが具体的に目の前に現れたわけですよ。あ、これ、って思いましたよ。



2階の窓からも田園の広がりや岩木山が眺められる

## 資料に手書きの手紙が 一番の安心感は「信頼」

高橋様の話 見学会の家つて、説得力がありますよね。そこに実際にお客様が住むわけですから。そのお客様にしても、あちこち展示場とか完成見学会に足を運んで、頼む工務店を絞り込んだはずですよ。それから間取りを作って、いろいろ細々と打ち合わせして、そうして建てた家が、わたしたちの気に合ったのですから、そのように建て



愛犬ちゃみこの運動場にもなっているウッドデッキ

てもらいたい、となりますよね。初めて見学した家で、県木住に決まっていました。

**お母様の話** 家つて、形のないものを、高いお金で買うのだから、心配し出せばきりがありません。ですから、信頼できるのがいちばん楽です。見学した県木住の家も良かったけど、信頼に結び付いたのは佐藤さん（佐藤時彦代表）の手紙だったんです。送られてきた資料に同封されていました。「ご満足のいく家づくりをお手伝いさせて

頂ければ幸いです」とね。手書きに人柄がにじんでいました。佐藤さんが、うちと同じミニチュアダックスを飼っていると知って親近感も抱きました。

**高橋様の話** 打ち合わせして、いったん決めたことを、あとで変更しても、佐藤さんは「いいですよ」と受け入れてくれました。「だめ」とは一言も言いませんでした。窓の件もそうです。リビングの窓を変更してもらったんです。最初は掃き出し窓ではなかったけど、母と話しているうちに開ければすぐ外に出られるほうがいいんじゃないかなって、変更をお願いしたんです。そしたら、すんなり、「いいですよ」って。

なんでもかんでも施主の言うとおりにするというのが、数多く住宅を建ててきた専門家として判断し、構造的にも問題はないから、「いいですよ」。ふところの深さを感じましたね。信頼できることが、いちばんの安心感でした。

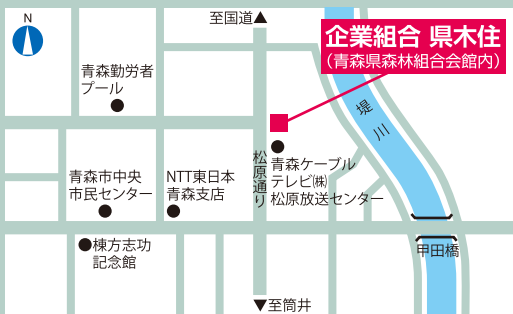
「いいですよ」って。



青森の木で家をつくる 企業組合  
**県木住**

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25 (青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com



# 企業組合 県木住



## ユ一ザ一訪問

じゅんじ

### 丹代 純嗣 様邸

#### DATA

平川市新屋 2018年9月竣工

■延べ床面積/40.25坪(133.05㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、大黒柱、梁、床、階段、棚)。

## 焼きスギの変化 楽しむ

## 板の節は「景色」と見る

溪流でルアー釣りをしている人の写真がパソコンに数枚送信されていた。獲物のイワナを手に微笑んでいる写真も。黒石を流れる温川の upstream でキャッチ&リリース。釣りは、前日取材した平川市の丹代純嗣様だった。この夏、丹代様と一緒に釣りに行った企業組合県木住の佐藤時彦代表が、「そのときの写真を掲載してほしい」と送ってきたのだ。丹代様と佐藤代表は共にルアー釣りが趣味。愛犬と暮らしているのも同じで、おまけに年代は違うが誕生日も一緒。県木住以外の他社現場は1軒も見ずに依頼した——という強い「縁」と「信頼」で完成した「木の家」である。

リビングと一体になった土間で薪ストーブが燃えていた。取材は2階のフリースペースで。階段を上がると、薪ストーブの熱で2階も十分に暖かい。中央に据えられたスギの大きなテーブルに3人向き合う。気が付けば、テーブルの脚はリング箱なのだった。ネットで取り寄せたという天板のスギ板と、リング箱を組み合わせた、これぞリング農家ならではのオリジナル座卓。丹代様が育てたリングゴをつくったという



溪流でイワナのルアー釣りを楽しむ丹代様

ジュースを頂きながら取材を進める。  
——外壁の焼きスギは丹代様の要望だとか。  
**丹代様の話** そうです。焼いた表面の炭化部分をそぎ落とし、たものじゃなく、焼きつ放しのスギ板です。そのほうが経年変化が楽しめますからね。黒色からだんだんと茶色になって、それからシルバーに変わる——その変化がいいんですよ。木は生き物だから、変化するところに味わいがあるんです。



愛犬のタマちゃん(オスのチワワ)



薪ストーブが置かれた土間と一体の開放的なリビング

**佐藤代表の話** 床には節のある板を使ってほしい、と丹代様から要望されました。木には節があつて当たり前だからと。リビングを育てている人の生き物に對する慈しみある見方ですね。

**丹代様の話** 節があるのも「景色」ですからね。

——建て替え以前の家は築何十年でしたか？

**丹代様の話** 築50年です。曾祖父が建てた家で、古いし、寒いし、リフォームして居間に本格的な薪ストーブを設置したいなと思うようになったんです。

——最初の計画はリフォームだったのですか。



外観に合わせ黒塗装したスギ板で作ったポスト。器用な丹代様の手づくり

**丹代様の話** そうです。以前は畳の上に簡易な薪ストーブが置いてあつて、それをどつしりとした薪ストーブに換えるにはまず居間を直さなければなりません。一部を土間にしてそこにストーブを置き、4室が「田の字」に並んでいる和室の、母親の部屋と続きの仏間は残して、あとは板敷にして……などなど考えているうちに2階も含めてほとんど全部を直さなければならなくなつて、それならいつ建て替えたほうが早いのではと。そのぶん長持ちもしますしね。

——2017年2月に県木住に資料請求されたということ

ですが、そのきっかけは？

**丹代様の話** ネットなんです。

「薪ストーブ」や「木の家」と打ち込んで検索したら、県木住に行き着いたんです。そのときに初めて県木住を知りました。他に「木」を使った家づくりをしている何社かのホームページも見てみたんですけど、気に入ったのが県木住の家でした。薪ストーブも付いていましたしね。

——ホームページで見た他社の家はどんなふうに映りましたか。

**丹代様の話** 木を使い過ぎて

いくどかかったりね。梁がごつくて威圧感があったり。その点、県木住はちょうど良かったんです。

**佐藤代表の話** 「木」と「内壁」の割合が丹代様の感覚にちょうど合っていたんだと思います。あまり木を強調し過ぎればくどくなるし、その逆だと「木の家」という雰囲気は薄くなってしまう。その割合なんです。半々くらいずつの組み合わせが好評のようです。



薪はリンゴの剪定枝。リンゴ農家だから薪には事欠かない



床には施主の要望で節のあるスギ板が使用されている

## 家づくりはプロに一任 設備機器は質素でいい

「他社の住宅を1軒も見学しなかったということは、ネットで見ただけで県木住に決めたということですね。」

**丹代様の話**（額きながら）20年の実績があるようなので信頼できるし、基本的に家づくりはプロに任せるつもりでしたから。

**佐藤代表の話** 丹代様に資料請求頂いたときに、翌3月に弘



落ち着いた佇まいの和室

前市新里のT様邸で聞く『木の体験会』（見学会）のご案内をさせていただきました。丹代様が来られたのは夕方になってからでしたが、ほとんど何も質問をされることもなく、1階を見て、2階を見て、じゃ、というような感じで帰られてしまいました。内心、イメージが違ったかなあ、と思っていたんですけど、そうではありませんでした。青森市や五所川原市の現場も4軒ばかりご案内し、お話しする機会が増えてから、丹代様は「そういう方なんだ」と分かってきました。あまり多くを語らず、物事の本質を見ている——そんな方なんだなど。「木の家」と「薪ストーブ」があればいいと。キッチンとかユニットバスとかの設備は質素なものでもいいと。家づくりの本質というものをしっかりと捉えていらつしやるから、表面的な「飾り」には関心がないのですね。

——プロにお任せしたご自宅の住み心地は？

**丹代様の話** 想像していた以上に良いですよ。全部本物の木だから、暮らしながら色合いがどう変わっていくか、「景色」の変化を楽しみたいです。



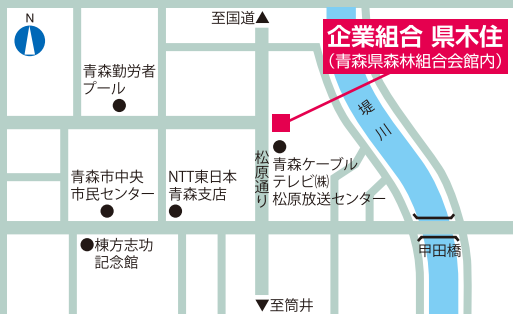
「木」と「内壁」の割合は半々ずつにして「木」がくどくなりすぎないように配慮している



青森の木で家をつくる 企業組合  
**県木住**

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25(青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com





# 企業組合 県木住



築37年の家をリノベーションして、これからも長く住み続けられるのは、もともとが総ヒバ造りの「本物の木の家」だからだ。県教育長の官舎だった平屋の床・壁・天井に断熱改修を施し、和風の雰囲気を残しながら、応接室だったという20畳の部屋を開放的なリビング・ダイニングに生まれ変わらせた。ダイニングに据えられた大きなテーブルの天板は、分厚いセンの1枚物。無垢ならではぬくもり、重み、存在感がある。ベンチ(長椅子)はヤマザクラ、ソファはクリ。家具も家も、本物の木だからこそ、新しい生活の時間が刻まれながら次の世代へまた引き継がれていく。

## 官舎をリノベーション “和風”残して断熱改修

リノベーション

### ユ一ザ一訪問

堀内 雅広・恵都子 様邸

#### DATA

青森市矢作

- 床面積/平屋建て 49.18坪(162.57㎡)
- 使用青森県産材/スギ(柱、床、梁、カウンター、建具)、タモ(玄関式台)〈家具〉セン(テーブル)、ヤマザクラ(ベンチ、靴箱、椅子)。

——7年前にこの土地・建物を取得されたとのことですが、買おうと思った決め手は何ですか？

**奥様の話** 主人の実家が近いからです。ここから歩いて数分。いずれは主人の両親と同居するつもりなので、近くを探していたら、ちょうどここが売りに出されていたんです。平屋の建物が建っていて、その10年くらい前まで県の教育長の官舎だったそうなんです。見た目には築30年などの古さはありませんが、



分厚い1枚物のセンの木を使用したダイニングの大きなテーブル

中に入ってみたら、なんと暮らせなくてもありません。初めは更地を買って家を建てる計画でしたけど、中古でも家が付いているぶん得だと判断して購入することにしましたのです。

**ご主人の話** 私は和風が好きなので続き間や障子の建つ縁側が好みでそれは良かったんですが、ともかく寒くてね。振り返れば7年間もよく我慢して住んでいたと思いますよ。息子が来年から小学校に上がるので、寝室にしていた洋室を子供部

屋にしようよと、そのへんから改修の計画が具体化しました。

**奥様の話** ここを買う前に、ただ見るだけのつもりで何軒か並んで建っている展示場（ハウジングパーク）を見学に行ったことがありました。最初に入ってみた展示場で、「この1軒だけであとは見なくてもいい」という嫌な思いをしたんです。もちろん接客してくれた担当の方はいつもどおりに説明したり、こちらに質問をしたりした



クリの木で造られたソファ

のでしようけど、それが厭でした。売り付けられるような感じがして。職場まで聞かれたときには、教えればしつこく営業をかけられるなど警戒しました。結局、わたしたち夫婦には合わなかつたんですよ。建物も洋風でしたし、わたしたちの好みは和風なんです。それで懲りて、以来、展示場にも完成見学にも行きませんでした。

—— 県木住に資料請求されたきっかけは何ですか？

**奥様の話** 実はわたしの職場の上司が、「建てるなら県木住がいい」って前々から薦めてくれていたんです。その上司のご主人が県庁の林政課に勤められていて、「県産材を使う県木住の家づくりは地域に貢献している」と。それと、ホームページを見て知ったんですけど、県木住の関連業者さんの中に大鱈の「わにもっこ」があつたんです。わたし、大鱈生まれで、わたしの伯父が以前わにもっこで働いていたこともあるし、小・中学





和風の雰囲気が残る20畳のリビング・ダイニング

校と同級生だったA子さんは今も働いています。わにもっとも繋がつているし、上司も薦めてくれるし、縁があるのになって思いました。

**ご主人の話** 県木住から完成見学会があると案内をもらって、場所が八重田で近くだから家族3人で行ってみました。そのときは私も妻も、新築のお宅を参考までに拝見するといった感じで、とくに質問もしませんでした。新築ではなく、私たちの計画はリフォームだったんです。リフォームにも応じてくれるかどうか。それが関心事でした。

**奥様の話** 一歩踏み込んで、話を聞いてみよう——そう決めて、次に五所川原の完成見学会に出かけたんです。

## 建物の間取りを生かす みんなうまく納まった

**佐藤代表の話** 奥様から、「リフォーム工事もしていただけるんですか？」とお声掛けいただき



襖を開放放つと開放的な空間が現れる2間続きの和室

きました。今の住まいがともかく寒い、と。築40年近い建物から「寒さを排除するためには、窓のサッシを全て高性能サッシに交換し、家全体を断熱改修しなければなりません。約50坪の平屋ということですから大きいぶん工事費もかかります。ざっと概算を言いました。すると、奥様は、「それくらいは覚悟しています」とおっしゃいました。腹づもりが決まっているから「覚悟」という言葉が出るのです。ご自宅を拝見させていた

だくことにしました。

**ご主人の話** あのととき私は、息子を仮面ライダーショーに連れて行つていて不在でしたね。

**佐藤代表の話** ご主人がお留守だったので、これは難しいのかな、と内心想つたんです。リノベーションすることについてまだご夫婦の意見が一致してないのかな、と。やはり家のことはご夫婦の意見が一致しないと進まないものです。ところがご主



玄関の手づくりの靴箱はヤマザクラを使用

人が出かけていたのは、やんちや盛りのお子さんがいないほうがゆつくり話ができるだろうという配慮なのだとなりました。そういう気遣いをされるご主人だったんです。俄然、やる気が湧きました。7年前に購入された土地・建物に加えて、今度は新築並みの経費のかかるリノベーションをされるのです。必ずや満足頂く家にしなければなりません。

**奥様の話** 以前は廊下の右奥が台所でした。その反対の、廊下の左側の応接室をリビング・ダイニングにし、応接室の隣に



廊下の右側、障子入りの引き戸を開けると玄関ホール

あつた和室を対面式のキッチンにしました。台所に寝室を移して、それまでの寝室を子供部屋に。最初から設計してみたみたいにみんなうまく納まりました。

——土地が328坪で、東西に長い建物の南側に庭が広がるから、眺めもいいでしょう。

**奥様の話** 窓を開けても隣の家の窓とくっついていないところがいいです。それも気に入って買ったんです。眺めもいろいろ、庭側にいくら屋根雪が落ちてもそのままにしておけるから、それがいちばん楽でいいですね。



青森の木で家をつくる 企業組合  
**県木住**

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25(青森県森林組合会館内2F・3F)  
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777  
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com

